やまさき

住みなれた地域で安心したくらしを

土万に小規模多機能型居宅事業所オープン

3月に開設された「いこいの家土万（ひじま）」は、地域密着型の介護保険の事業所です。

これまで、デイサービス、ショートステイ、訪問看護など、別の事業所を利用しなければならなかったのですが、ここでは、ひとつの事業所でなじみの職員により通いのサービス、訪問のサービス、宿泊のサービスを組み合わせて利用することができます。

そして、身体が不自由になっても住みなれた地域でそれまでの生活が継続できることをねらいとしています。

管理者の久保ひとみさんは、「地域の方にも気軽に顔を出していただけるような事業所になるよう頑張りたい」と抱負を語っておられます。

宿泊する部屋も畳とベッドの部屋が2つずつ。開設して2か月。もう「泊まり」もはじまっています。

土万地区は、「ふれあいの館」を自治会で運営されるなど地域活動が盛んなところです。地元の土万自治会長の仲村敏男さんは、「土万地区は、高齢化率が高い。体が悪くなって入院しないよう介護予防のために役立ってほしい」と期待を寄せられています。

（山崎支部　阿曽秀樹）

居間には掘りごたつが2つ、家庭的な雰囲気がいっぱいです。

いちのみや

「思いやり号」でたすけあい

地域での運営が光る!!

停留所は、自治会毎に3～4か所設置。この看板（右上）が目印（写真は本谷自治会にて）

今月は、染河内の生活交通の"顔"として活躍中の「思いやり号」を紹介します。

一宮染河内地区では、神姫バスの路線休止（東市場～才樫間）に伴い、代替交通として、染河内「思いやり号」を4月より運行しています。

思いやり号は、地域住民の思いやりやたすけあいの精神で運営され、運行開始から一か月で86名が利用されました。

現在、染河内～一宮市民局間（朝・昼・夕の3往復便）を毎日運行し、通学や買物などの移動手段として大きな役割を果たしています。

染河内の地域の足である思いやり号は、これからの宍粟市の公共交通のあり方に一石を投じたようです。

（一宮支部　波多野好則）

乗車券の購入を！

「子どもや高齢者、いろんな人に利用してほしい。」と、藤原武文さん（写真）。現在8人の運転手がボランティアとして協力しています。

【問い合せ先】
●一宮市民局まちづくり推進課（☎72・1000）